



未来に遺すデータ管理

T. Morioka

自己紹介

- 情報システムの設計・開発
ウィークエンドのBlockchain エンジニア (勉強中)
- Blockchain技術で分散型クラウドを実現する
ICP (Internet Computer Protocol) に関心
- 個人のデータをどう管理していくかに課題を感じている
→ Blockchain技術でうまく解決できないか

データ管理の難しさ

データを保管する上でのリスク

- データ消失： ハードウェア故障、誤った操作など
- データ漏洩： 不正アクセス、ウィルス侵入など
- データ毀損： 意図せず編集

企業・行政機関の管理するデータ

⇨ システム化、バックアップ運用で心配なし

個人のデータ管理

⇨ 各家庭によって様々...

運用の経験と課題

個人のデータ管理

- 1997年頃からデータ管理をはじめる (email、写真、…)

直近十数年間は、子どもの成長を記録 (写真・動画、学習記録、…)

課題

- 『大切なデータはなるべく自宅にしまっておきたい』

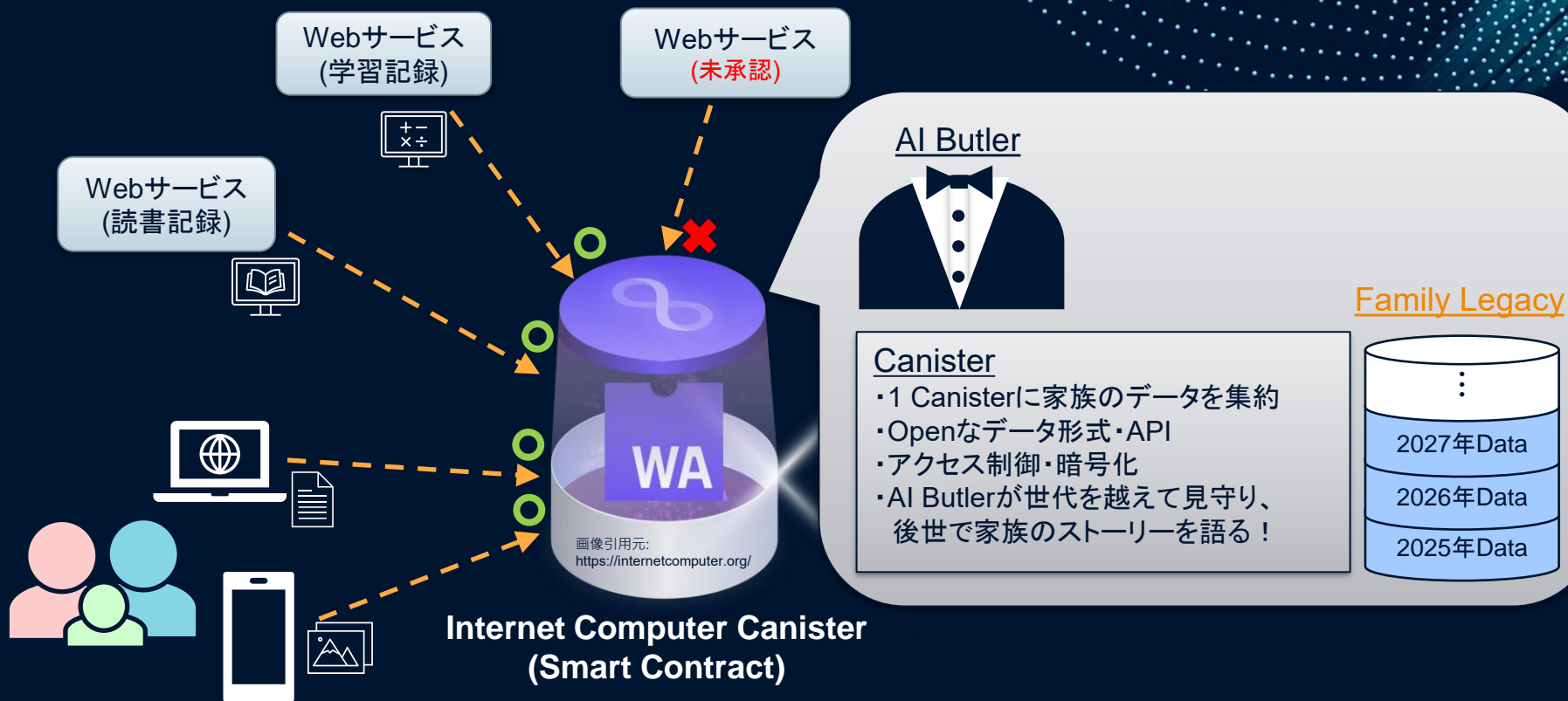
2015年に **自宅NAS故障**、以降はGoogle DriveとOne Driveへ **多重化**

→ 特定ベンダーに依存せず、**オープン仕様のクラウド**で管理したい

- 『Webサービスのデータは自身で所有したい』

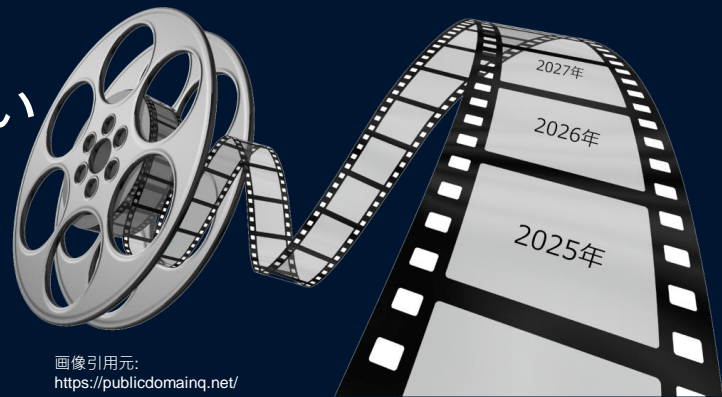
→ 現状、**スクレイピング**、**ページをPDF保存**...

Data Centralization on Decentralized Platform



未来に遺すデータ管理

- その時、その瞬間しか記録できない様々なデータを
できるかぎり記録していくことが大切
- 自分、子ども、その子ども・・・と家族の歴史を記録
数百年後まで遺すことができれば **Family Legacy** になる
- Blockchain技術(分散型クラウド)を使って
未来にデータを遺す仕組みを考えていきたい



画像引用元:
<https://publicdomainq.net/>



ご清聴ありがとうございました